

(様式)

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	スジアオノリ
対象海域	八代海

八代市球磨川河口域におけるスジアオノリ養殖現場の環境調査について

県南広域本部水産課・島田 小愛

【背景・目的・目標（指標）】

八代市の球磨川河口域では、スジアオノリの養殖が盛んに行われており、その製品は「八代青のり」としてブランド化され、全国から引き合いのある人気商品となっている。しかし、スジアオノリ養殖は生産者の感覚に頼る部分が多いことに加え、生産量は毎年ばらつきが大きく、安定生産に結び付いていない現状がある。

そこで、スジアオノリ養殖の安定生産体制の構築を図るため、令和 2 年度(2020 年度)は、生産者や八代市役所、水産研究センターと協力しながら養殖域の環境調査を実施し、養殖域の環境特性の傾向を把握するとともに、生産者向けの勉強会を実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 環境調査

年月：令和 2 年(2020 年)11 月～令和 3 年(2021 年) 2 月

内容：球磨川河口域の養殖漁場において、3 地点の定点を設けて、調査期間中に、水温及び塩分の測定を週 1 回、大潮時と小潮時には養殖網に取り付けたデータロガーで水温の 12 時間観測を実施した。

(2) スジアオノリ生産者との勉強会

月日：令和 3 年(2021 年)3 月 18 日

場所：八代漁協金剛地区事務所

出席者：生産者 6 名、八代市役所 1 名、水産研究センター 1 名、水産課 1 名

内容：令和 2 年度(2020 年度)漁期の調査結果報告

【成果・活用】

今回の調査結果より、スジアオノリの養殖が行われている球磨川河口域では、大潮の満ち潮時は表層から底まで海水となるが、引き潮時には表層付近で河川水により低塩分化し、小潮では大潮と比較すると一定して表層付近の塩分が低くなる傾向が見られた。

なお、生産者が養殖網を張り込む水深帯は表層から 0.4～1mの間であり、河川水の影響で塩分が大きく変動する環境下で養殖が行われていることが分かった。また、養殖期間中の水温は 6.5℃～15.8℃の間で推移した。

勉強会では、生産者から「これまでデータを見たことがなかったため、今後の養殖に向け参考にしたい」といった声が聞かれた。また、次年度以降の調査の要望もあるため、今後も関係機関と連携しながら調査を続けていく。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

(様式)



図1 養殖状況調査定点図

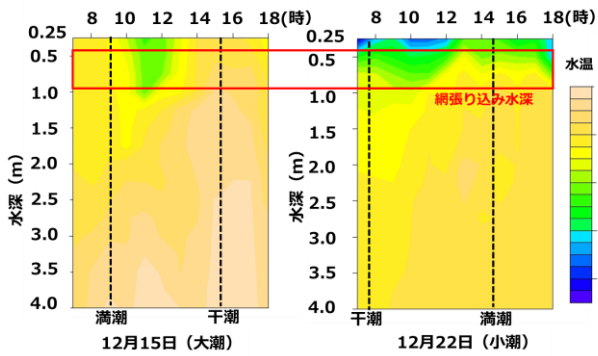


図2 12時間調査による水温の鉛直分布の経時変化

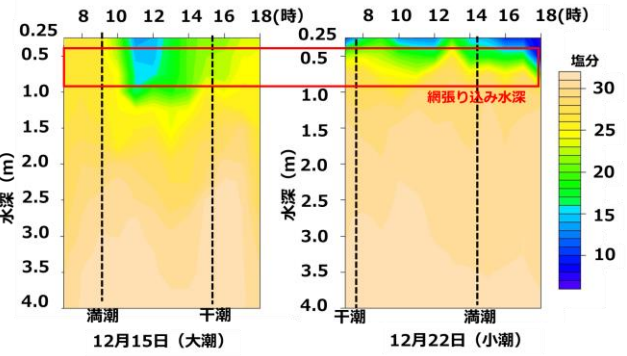


図3 12時間調査による塩分の鉛直分布の経時変化

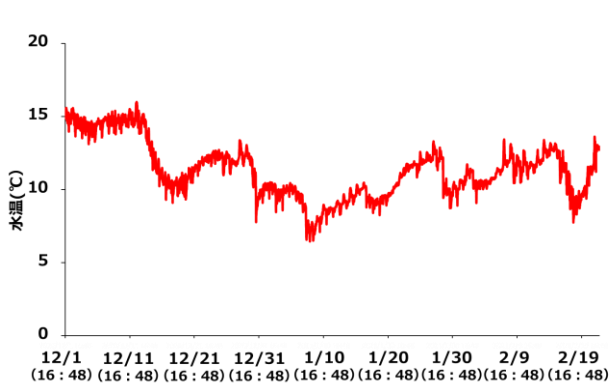


図4 水温の推移

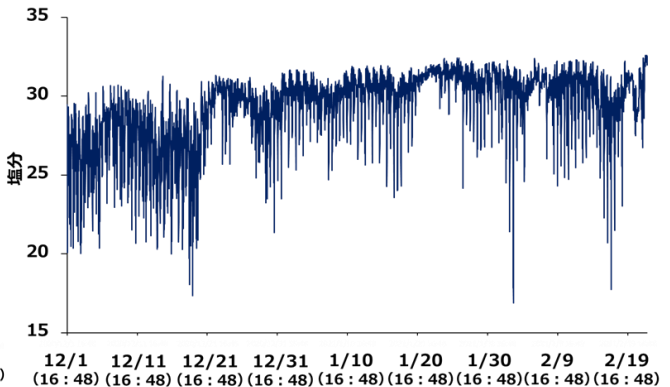


図5 塩分の推移



図6 養殖状況の確認



図7 勉強会の様子